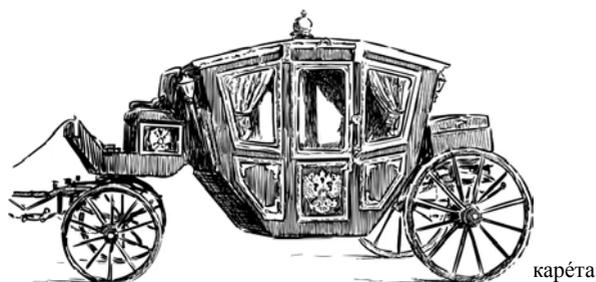


# 1

Была осень.<sup>2</sup> По большóй дорóге<sup>3</sup> скóрой<sup>4</sup> рýсьью<sup>5</sup> ёхали два экипажа.<sup>6</sup> В перéдней<sup>7</sup> карéте<sup>8</sup> сидели<sup>9</sup> две жéнщины. Одна была господа,<sup>10</sup> худáя<sup>11</sup> и блéдная.<sup>12</sup> Другáя<sup>13</sup> —<sup>14</sup> гóрничная,<sup>15</sup> глянцеви́то-румяная<sup>16</sup> и

時は秋。街道を二台の乗用馬車が速め<sup>たく</sup>の跑で走っていた。前方のバネ付き四輪馬車には二人の女性が乗っていた。ひとり<sup>だく</sup>は地主夫人で、やせて、青白かった。もうひとり<sup>だく</sup>は小間使いで、つやつやとし



1 смерть【女】「死」。【文法】個数詞＋名詞が主格のとき，2，3，4のあとの名詞は単数生格。

2 【文法】未来時制なら Будет осень. 現在時制ならゼロ述語で Осень. (英語: It is autumn.) ロシア語には，現在時制のときに主格の一語のみで表現される文がある。例 Утро. 「朝です」。

3 большáя дорóга 「主要道路，街道」。通常は都市と都市を結んでいる道路。これにたいし просёлочная дорóга 「田舎道」は село 「村」と село を結ぶ道。【用法】(по＋与格)は「移動の表面」(その上を移動する)をあらわしており，「…の脇の道」ではない。例 идти вдоль дорóги 「道路の脇を歩いていく」。

4 скóрый【形】「速い」。

5 скóрой рýсьью 「速めのたくで」。рýсьью 「たく(足)で」はおもに馬の進み方を示す副詞だが，このように形容詞が修飾している場合は名詞 рýсь 【女】の造格ともみなせる。ギャロップほど速くはないが，前足を高くあげて走る。рýсьью は，(32頁のように)人間やほかの動物の速い動きにも使う。

6 ロシア語には「馬車」という語がいくつか存在するが，экипаж【男】は乗用馬車一般をあらわす。【用法】今日のロシア語では ёхать より идти がふつうであり，乗り物自体の動きに ёхать を使うのは口語的。【文法】два экипажа が主語のとき，述語動詞は単数中性のこともある。一般に，個数詞が2，3，4のときは，個別性(数えられる)に重点をおき，複数になることが多い。【補注】以上の2つの文でこの小説の第1章の時間と空間が明示されている。じつは，秋の道はぬかるんでおり，旅行には不向きであった。

7 перéдний【形】(軟変化)「前方の」↔ зáдний 「後方の」。

8 карéта【女】「バネ付き四輪箱馬車」。この短篇の地主貴族のように富裕な者が利用。【補注】バネ付き四輪箱馬車のサイズはさまざまで，六頭立てもあった。乗降用の扉のほか，左右と前方にガラス窓が備わっていた。馬車のサイズにもよるが四頭立て(ないし三頭立て)のことが多かった。四頭立ての場合，四頭を横一列につないだものと，二頭ずつに分けているものがあった。前者は幅広い道が必要とした。

9 сидéть【不完】(動作ではなく状態を示す動詞で，完了体はない)。ここでは，「すわっている」ではなく，「乗っている」。例 сесть в самолёт は「飛行機にすわる」ではなく「飛行機に乗る」。

10 господа【女】(帝政ロシアの)地主貴族夫人= барыня. これにたいし жéнщина【女】は女性一般をあらわす。господа に対応する男性名詞は господин (= барин). 複数形は господа (= бары あるいは баре)。【用法】барин は дворянин 「貴族」，помещик 「地主(ふつう貴族)」，чинóвник 「官吏」などの総称として用いられるほか，農奴にたいする「主人」という意味ももっていた。

11 худóй【形】「やせた」= тóнкий.

12 блéдный【形】「血の気がない，青白い」。

13 【用法】один と другой を対比して使う。одна жéнщина..., другая жéнщина... 「ある…は，またある…は」，「一方は…，他方は…」。

14 【文法】先行する文と同一の動詞の同一形態が述語にくる場合(ここでは была)，省

пóлная.<sup>17</sup> Корóткие<sup>18</sup> сухие<sup>19</sup> волосá<sup>20</sup> выбивáлись<sup>21</sup>  
из-под<sup>22</sup> полиня́вшей<sup>23</sup> шля́пки,<sup>24</sup> красна́я<sup>25</sup> рука́ в  
прорва́нной<sup>26</sup> перча́тке<sup>27</sup> порывисто поправля́ла<sup>28</sup>  
их. Высо́кая грудь,<sup>29</sup> покры́тая<sup>30</sup> ковро́вым плат-

た赤らんだ顔をしており、ふとっていた。短いぱさぱさした髪が色  
褪せた帽子の下からはみだすたびに、使い古して穴のあいた手袋を  
はめた赤らんだ手がしきりに髪をなおしていた。分厚い毛織のショ  
ールをかけたふくよかな胸は健康で息づいており、きよろきよろ動

略することが多い。

15 горничная【女】《形容詞変化》「小間使い」。元の形容詞 горничный は現在では用いられない。

16 глянцеви́тый【形】「つやのある」(= гляцевый) は、この例のように、単独でなく複合形容詞の前半に (гляцевито-) 使われることも多い。румяный【形】「赤い、血色のよい」の元の名詞 румянец【男】は、健康な人の顔の赤みをあらわす。

17 полный【形】「太った」= толстый。【用法】面と向かっては полный を用いるのがふつう。【文法】名詞を直接修飾するのではなく、語調や意味の面で名詞から分離されているときに形容詞(独立定語)を名詞のうしろにおく場合、名詞のあとにコンマを付す。この箇所は, госпожа́ と горничная の外貌の対比をいっそうきわだたせている。

18 короткий【形】「短い」↔ длинный「長い」。

19 сухой【形】「かさかさ・ぱさぱさの、乾いた」。【文法】この箇所(корóткие сухие)のように性質形容詞どうしが並んでいて、両者のあいだに **и** やコンマがない場合は語順は任意とされているが、より安定した・一貫した特徴を示す形容詞のほうが名詞の直前にくることが多い。関係形容詞どうしが並んでいる場合も同様。двухэта́жный дере́вянный дом「二階建ての木造の建物」。

20 【用法】волосá は волос【男】「髪」の複数形であるが、あとの箇所でも夫人の髪を描写している箇所では волосы という複数形が使われている。前者はたんに古い形態であるだけでなく俗語的なニュアンスが伴っていたのかもしれない。農民が会話で使う形態だったと記しているものもある。トルストイが意識的に使い分けているのであろう。

21 выбивáться【不完】「はみ出る」。この不完体は反復される動作をあらわしている。

22 из-под【前置】《生格》「…の下から」。

23 полиня́ть【完】「色褪せる」の能動形容詞過去「色褪せた」。ここでは形容詞化して полиня́лый【形】「色褪せた」と同じ意味で用いられている。【文法】形容詞は動詞に伴っていた時間的意味を失い、動作ではなく性質・特徴を示す形容詞に移行することがよくある。

24 шля́пка は шля́па【女】「(まわりにつばのある) 帽子」の指小語。つばのない帽子は ша́пка (指小語は ша́почка)。【用法】女性の持ち物、服装などを示すときに指小語がよく使われる。☞ сума́чка「ハンドバッグ」(сума́ка【女】「バッグ」の指小語)。

25 красны́й【形】「赤い(色の)」ではなく「赤らんだ、血色のよい」。

26 прорва́ть【完】《対格「…を」》「(使い古して) 穴をあける」の被動形容詞過去。ここでは「穴があけられた」ではなく形容詞化して「穴のあいている」。

27 перча́тка【女】「手袋」(54頁の рукави́ца「ミトン」と異なり指が一本一本分かれている)。【用法】《в + 前置格》で着用しているものをあらわす。☞ в ша́пке「帽子をかぶっている」、в сапога́х「ブーツをはいている」、в красном「赤い服を着ている」。

28 поправля́ть【不完】《対格「…を」》「なおす、整える」。反復される動作をあらわす不完体。副詞の порывисто「せかせか」も反復を示している。

29 грудь【女】「胸」。высо́кая грудь は訳としては「高い胸」というよりも「ふくよかな胸」。反対は 20 頁の впáлая грудь。

30 покры́ть【完】《対格「…を」》「おおう」の被動形容詞過去。

кóм,<sup>31</sup> дышáла здорóвьем,<sup>32</sup> бы́стрые чё́рные<sup>33</sup> гла́за  
то следíли<sup>34</sup> через окнó за убегáющими<sup>35</sup> поля́ми,<sup>36</sup>  
то рóбко<sup>37</sup> взгля́дывали<sup>38</sup> на госпожú, то<sup>39</sup> беспокóй-  
но<sup>40</sup> окíдывали<sup>41</sup> углы́<sup>42</sup> карéты. Перед нóсом<sup>43</sup> гóр-  
ничной качáлась<sup>44</sup> привéшенная<sup>45</sup> к сётке<sup>46</sup> бáрыни-  
на<sup>47</sup> шля́пка, на колéнях<sup>48</sup> её<sup>49</sup> лежáл щенóк,<sup>50</sup> нóги её  
поднимáлись<sup>51</sup> от шкату́лок,<sup>52</sup> стоя́вших<sup>53</sup> на полу́<sup>54</sup>

く黒い瞳は、走り去る野原を窓越しに追っていたかと思うと、奥様のほうにおずおず眼をやったり、馬車の隅々を不安げにながめまわしていた。小間使いの目の前では、網棚に吊るされた夫人の帽子がぶらぶら揺れ、膝の上には子犬が寝そべっていた。小間使いの足は、床においたいくつかの手箱のせいでもちあがっており、手箱を太鼓

31 ковровый платок 「分厚い毛織の(絨毯 ковёр に似た) ショール」 = коврóвая шаль。  
【文法】 коврóвым платкóм は「道具・手段」の造格。

32 дышáть 【不完】は、あとに све́жий вóздух 「新鮮な空気」などが造格でくる場合(「呼吸する」)とはちがひ、здорóвье 「健康」や дово́льство 「満足」の造格がくると「健康・満足であふれている」を意味する。

33 чё́рный 【形】「黒い」。【用法】髪や眼の色をあらわすときの「黒い」は чё́рный と тёмный が使われるが、後者はやや弱めの黒で「黒っぽい髪・眼」に使うことが多い。ただし完全に同義でも使われる。

34 следíть 【不完】(за + 造格)「(動くものを)目で追う」。следíть через окнó 「窓越しに追う」。

35 убегáть 【不完】「遠ざかっていく」の能動形容分詞現在(いま進行中の動作)。

36 по́ле 【中】「野原, 草原」。

37 рóбко 【副】「おずおずと, こわごわ」。

38 взгля́дывать 【不完】(на + 対格「…を」)「ちらちら見る」。完了体は взгля́нуть 「ちらり見る」。

39 【用法】 to..., to..., のかたちで「あるいは…あるいは…」, 「…したり…したり」。二つの不完了体動詞はほぼ同時に行われている動作を示している。この箇所では、落ち着かない様子をあらわしている。

40 беспокóйно 【副】「落ち着かず, 不安げに」 ↔ спóкойно 「落ち着いて, 穏やかに」。

41 окíдывать 【不完】(対格「…を」)「仔細に見る, つくづくながめる」 = осмáтривать。  
【用法】完了体の окíнуть 「ぱっと見る」が瞬間的な動作をあらわすのにたいして、この不完了体は「隅々をながめまわしている」感じをよくあらわしている。

42 úгол 【男】「隅, 角」の複数対格。

43 перед нóсом 「鼻先で, すぐ目の前で」《俗語》 = под (сáмым) нóсом。

44 качáться 【不完】「揺れる」。

45 привéсить 【完】(対「…を」 к + 与「…に」)「吊るす」の被動形容分詞過去。

46 сётка 【女】「網棚」。

47 бáрынина は所有形容詞 бáрынин の単数女性主格 (< бáрыня 「地主貴族夫人」)。【用法】この型の形容詞は現在ではあまり用いられず、名詞の生格「～の」を後置して示すことが多い。例 шля́пка бáрыни。

48 колéно 【中】「上肢, 腿」の複数前置格。на колéнях 「膝の上に」。

49 её 【所有代名詞】「彼女の」。【19世紀ロシア語】 на колéнях её : 19世紀(ことに前半)のロシア文学には、所有代名詞が名詞のうしろに位置している例がまだかなり残っている。詩などの場合はリズムとの関係で説明されていることもあるが、散文ではリズムや歌唱性に関係なく「伝統的」でしかない場合が多い。この『三つの死』でも多用されている。

50 щенóк 【男】「子犬」。

51 поднима́ться 【不完】「もちあがる」。

52 шкату́лка 【女】「小箱」。от шкату́лок 「いくつかの小箱のせい」。

53 стоя́ть 【不完】「おいてある」の能動形容分詞過去。

54 полу́ は пол 【男】「床」の前置格。шкату́лки, стоя́вшие на полу́ 「床においてあつ